

# エドワード二世 (1)

クリストファー・マーロー 作  
熊崎久子 訳

## 登場人物

エドワード二世	ボールドック
エドワード王子, 王の息子, 後のエドワード三世	ボーモント
ケント伯爵, 王弟	トラッセル
ギャヴェストン	ガーニー
ウォリック	マトリーヴィス
ランカスター	ライトボーン
ペンブルック	エノーのサー・ジョン
アランデル	ルヴェン
レスター	ライス・アップ・ハウエル
バークレイ	修道院長, 修道士たち, 伝令, 貴族たち, 貧しい男たち
老モーティマー	ジェイムズ, 草刈人,
若モーティマー, 老モーティマーの甥	国王護衛官, 使者たち,
老スペンサー	兵士たち, 従者たち
若スペンサー, 老スペンサーの息子	イザベラ王妃, エドワード
カンタベリー大司教	二世の妃
コヴェントリー司教	エドワード二世の姪, グロ
ウインチェスター司教	スター侯爵の娘
	侍女たち

## 舞 台

イングランド, フランス

## 第一幕, 第一場

ギャヴェストン, 王より齎された手紙を読みながら登場

ギャヴェストン 「父王は崩御された。来たれ, ギャヴェストン,

この王国をそなたの最愛の友と分かとうではないか。」

おお、この身を歓喜で溢れさせる言葉よ！

国王の寵臣となって生きることには勝る

至福がこのギャヴェストンに起こり得ようか？

5

愛しい王子よ、参りますぞ、このような、これほどの愛に

満ちあふれたお手紙は

私をフランスから泳ぎ帰らせたかもしれません、

そしてリアンダーさながらに喘ぎつつ砂浜に立つ私を、

あなたはほほ笑みながら、その腕の中に抱き締めて下さる

ことでしょう。

追放されていた私の目にはロンドンのたたずまいは

10

初めて見る者の目に移った楽園のように見えるでしょう；

私がこの市や市民たちを愛しているからではなく、

私がこよなく愛する方が住まわれる市だからだ。

その王よ、あなたの胸に抱かれたなら、喜びで気を失ってし

まうことでしょう、

全世界とは依然として敵対し続けようとも。

15

北極の人間が星の光を愛でる必要などあろうか？

昼も夜も太陽が輝いているのだから。

尊大に構えた貴族たちに卑屈に身を屈めるなどもうおさらばだ。

私の膝は王に対しのみ屈めるのだ。

民衆などは、貧乏という残り火をかき集めて

20

火花を散らしているに過ぎんだ——

もううんざりだ；いっそ、私の唇をかすめて吹き抜けていく

風にでもへつらったほうがまだ。

だが、さて、あいつらは何者だ？

[三人の貧しい男たち登場]

貧しい男たち 閣下にお仕えしたいと願っている者です。

25

ギャヴェストン 何ができるのだ？

第一の貧しい男 私は馬に乗れます。

ギャヴェストン 私は馬など持っていない。お前は何者だ？

第二の貧しい男 旅行家です。

ギャヴェストン えーっと——お前は私の

30

食卓に侍べり、晚餐の席で嘘を並べたててみるがよい、  
話しぶりが気に入ったら、お前を雇うことにしよう。

さて、お前は何者だ？

第三の貧しい男 対スコットランド戦に従軍したことがある兵士です。

ギャヴェストン それなら、お前たちのための慈善院があるのではないか。 35

私には戦争など関係ない、だからお前には用がない。

第三の貧しい男 おさらばだ、兵士の手にかかって滅びるがいい、  
慈善院などを使って兵士の労に報いようなんて奴は。

ギャヴェストン 奴の言葉は、鳥がやまあらしの役を演じ、  
私の胸を突き刺せるものと思って、羽根を飛ばすようなもので、 40  
効き目などありはしない。

だが、甘い口先だけのことを言ったところで

何の苦痛もあるわけではない。

この連中に世辞を言い望みをもちつつ生きさせてやろう。 [傍白]

知っての通り、私は最近フランスから帰国したばかりだ、  
そしてまだお仕えする王にもお目通りしていないのだ。 45

うまくいったなら、君たち全員を雇うことにしよう。

貧しい男たち 閣下、ありがとうございます。

ギャヴェストン 用事があるので、一人にしてくれ。

貧しい男たち 私たちは宮廷のこの辺りでお待ちしています。

[貧しい男たち退場]

ギャヴェストン そうしてくれ。あの連中は私には向いていない。 50

私は恋多き詩人、楽しい才子たち、楽師たち、  
弦の鳴らし方ひとつで柔順な王を私の思うがままに  
引きずってくれるような連中を雇わねばならん、  
音楽と詩歌が王の楽しみだ。

それ故、夜には、イタリアの仮面劇、心地よい台辞、  
喜劇、楽しい見せ物を； 55

そして昼に、王が外を歩かれる時には、  
私の家臣たちには、

芝草を食むサティロスに似せて、  
山羊の足で古風な踊りを踊らせよう。 60

時にはダイアナに扮した美しい少年に、

その髪は、水面を滑って行くとき、水の面を金色に染め、  
剥き出しの腕には真珠の腕輪をつけ、  
鮮やかな両の手にはオリーブの一枝を持ち、  
男たちが見て喜ぶあの箇所を隠している、  
その少年に泉で水浴をさせよう：そして、その傍らでは、  
アクテオンさながらの男が木立の間から覗き見をし、  
怒った女神に姿を変えられ、  
雄鹿の似姿で逃げ回り、  
吠え立てる獵犬どもに引き倒され、命を失ったかのように――  
そういったようなことが何よりも陛下の御意に適うのだ。  
陛下！ 議会から帰られる王と貴族たちが  
お見えになったぞ。脇に控えていよう。

[脇へ退く]

エドワード王、ランカスター、老モーティマー、  
若モーティマー、ケント伯エドモンド、ウオーリック伯ガイ、  
その他登場

エドワード王　ランカスター！

ランカスター　はい、陛下。

ギャヴェストン　あのランカスター伯爵は嫌な奴だ。　　[傍白]

エドワード王　この件に同意してはくれないのか？　皆の意見がどうであらうとも私は思うとおりにするぞ、そして、こうまで私に逆らう二人のモーティマーに私が気分を害したことを

思い知らせてやる。[傍白]

老モーティマー　陛下、我々を愛してくださるのでしたらギャヴェストンをお憎しみください。　　80

ギャヴェストン　悪党のモーティマーめ、殺してやる。　　[傍白]

若モーティマー　ここにおります我が伯父、伯爵と私自身も

お父君崩御の際にお誓い申し上げたのです、

ギャヴェストンを決して帰国させないと。

ご承知おきください、陛下、この誓いを破棄するくらいなら、　　85

陛下の敵を地獄へ送るはずの、この私の剣は

陛下が必要とされる時に鞆の中で眠ったままとなり、  
陛下の御旗の下に何人が進軍しようとも、  
モーティマーの甲冑は吊るされたままにいたしますぞ。

ギャヴェストン 畜生！ [傍白] 90

エドワード王 よくぞ申した、モーティマー、その言葉を悔やませてや  
るぞ。王に逆らうのが自分にふさわしいとでも思っているのか？

眉をひそめているのかね、野心家のランカスター？

この剣であんたの額の皺を伸ばし、

曲がらなくなった膝をたたき切ってやろう。 95

私はギャヴェストンを呼び戻すぞ、そしてお前たちには

王に逆らうことがいかに危険かを教えてやろう。

ギャヴェストン 上出来だ、ネッド！ [傍白]

ランカスター 陛下、何故これほどまでにあなたの貴族たちを激怒させ  
るのですか？ あの卑しい、素性の知れないギャヴェストンさえいな 100  
ければ、当然あなたを愛し、敬う我々を。

私はランカスターの他に四つの伯爵領をもっております——

ダービー、ソールスベリー、リンカーン、レスターを；

これら領地を兵士の給料を支払うために売るつもりです、

ギャヴェストンをこの国に留めるくらいなら； 105

ですから、彼が帰国しましたら直ちに追放してください。

ケント 諸侯たち、勢いに飲まれ黙っておりましたが、

今こそ言葉をはさませていただきたい、論争の余地もないこと

であります。

父の時代のことですが、よくおぼえております、

北方のパーシー卿が、非常に憤慨されて、 110

王の御前でモーベリーに決闘を挑んだのです：

そのために、陛下が彼を深く愛しておられなかったなら、

彼は首を落されてしまったところです；しかし、王のお顔を

拝するや、豪胆を誇るパーシーも心和らぎ、

モーベリーと彼は和解したのです。 115

それでも、あんた方は王に面と向かって挑戦されるのか？

兄上、報復なさるがいい、この連中の首を

柱に吊し、奴らの舌が犯した罪の証しとなさい。

ウォリック おお、我々の首だと！

エドワード王 その通り、お前たちの首だ；それ故お前たちに—— 120

ウォリック 怒りを抑えなさい、モーティマー殿。

若モーティマー 私には出来ません、また抑えるつもりもありません；  
言わねばなりません。

親族の方よ、我々は自らの手で首を守りますし、あなたに我々を脅か  
させている者の首を打ち落としましょう。

さあ、叔父上、頭のおかしい王を捨てて 125

これからは抜き身の剣をもって話をするとしましょう。

老モーティマー ウィルトシャーには我々の首を守るに十分な兵士がおる。

ウォリック ウォリックシャー全土は私故に彼に好意を示すでしょう。

ランカスター そして、北方にはギャヴェストンの味方が大勢おります。

お別れです、陛下、お考えをお変えになるか、 130

でなければ、今座しておられる王座が、

血の海に浮かぶのをご覧になることになりますぞ、そして

あなたの無責任な頭の上にあなたの卑しい寵臣の

追従の首が投げつけられることになりましょう。

[エドワード王、ケント、ギャヴェストンと

従者たちを除く全員退場]

エドワード王 あの連中の不遜な脅しには我慢がならん。

私は国王であろう、それが抑え付けられねばならぬとは？ 135

弟よ、わが軍旗を戦場に掲げてくれ；

貴族たちと一戦を交え、

死ぬか、あるいはギャヴェストンと共に生きるかだ。

ギャヴェストン もうこれ以上陛下から身を隠していることは出来ない。

[ギャヴェストン、前へ出る]

エドワード王 やあ、ギャヴェストン！ ようこそ！ 私の手に口づけ  
などしないでくれ； 140

私がしているように私を抱いてくれ、ギャヴェストン。

何故跪かねばならんのだ？ 私が誰だか分からないとでもいうのか？

そなたの友、そなた自身、もう一人のギャヴェストン！

ヒュロスの失踪を悲しんだヘラクレス以上に

私は追放以来そなたのことを嘆き悲しんでいたのだ。 145

ギャヴェストン　そして、この国を去って以来、地獄に落ちた  
 いかなる魂にもまして、哀れなギャヴェストンは苦しみを  
 味わいさいなまれて来たのです。

エドワード王　存じておる。弟よ、我が友の帰国を歡び迎えてくれ。  
 さあ、不実なモーティマー家の者共は謀計を巡らせるがいい、  
 そして高慢なランカスター伯爵もだ！

そなたに会えて嬉しいという点では私の願いは叶った、  
 そなたをこの国から連れ出す船を浮かべるくらいなら、  
 我が国全土が大海に飲まれてしまったほうがよい。  
 ここにそなたを式部長官、  
 國務大臣、宮内大臣、  
 コーンウォール伯爵、マン島の総督に任命する。

ギャヴェストン　陛下、そのような称号は私の価値を遙かに  
 超えるものであります。

ケント　兄上、その中で最も低い称号でも  
 ギャヴェストンよりも高い生まれの者にも十分なくらいです。  
 エドワード王　止めなさい、弟よ、その言葉には我慢がならないぞ。  
 そなたの価値は、愛する友よ、私の贈り物などより  
 遙かに高いものなのだ；

それ故、その値にふさわしくなるように  
 私の気持ちを受け取るがよい。

その高位と爵位のために妬まれるようなことがあれば、  
 もっとあげよう；そなたを礼遇するためにのみ、  
 エドワードは王座にあることを喜びとしているのだから。

身辺を恐れているのか？　ならば護衛を付けよう。  
 黄金を望んでいるのか？　では国庫へ行きなさい。  
 愛されたり、恐れられたりしたいのかね？　それなら王璽を  
 受け取りなさい；

助けるも罪に落とすも、王の名において、そなたの心が  
 求めるままに、思い付くがままに、何なりと命令するがよい。

ギャヴェストン　陛下のご寵愛をお受けできるだけで十分でございます。  
 ご愛顧を頂ける限り、私は自身が、捕虜にした王たちを  
 引き連れ、戦車に乗ってローマの大通りを凱旋するシーザーに

劣らぬほど偉大になったと思うことでしょう。

[コヴェントリー司教登場]

エドワード王　コヴェントリー司教殿，そのように急がれてどこへ  
行かれるのだ？ 175

コヴェントリー　お父上の葬儀を執り行うためです。

ですがあの邪悪なギャヴェストンが帰国したのですか？

エドワード王　そうだよ，司祭さん，お前に復讐するために  
生きているのだ。

彼が追放になった唯一の元凶はお前なのだからな。

ギャヴェストン　その通りです，そしてその法衣に敬意を払わなくて  
よいものなら， 180

あんたはこの場所から一步も先へは進めないところだ。

コヴェントリー　私は義務を果たしただけです；

そして，ギャヴェストン，あんたが心を改めないなら，

あの時議会を激怒させたように，

今度もそうして，あんたをフランスへ送り返してやる。 185

ギャヴェストン　失礼ながら，司教殿，私を赦さなくてははいけませんよ。

エドワード王　彼の黄金の司教冠を投げ捨て，ストールを引き裂き，

側溝の中で洗礼をし直してやるがいい。

ケント　おお，兄上，彼に暴力を振ってはなりません。

ローマの教皇庁へ訴えられますぞ。 190

ギャヴェストン　地獄の教皇庁へでも訴えさせるがいい；

私を追放させたことの復讐をしてやる。

エドワード王　いや，命は助けてやって，財産を没収しなさい。

そなたが司教になって彼が手に入れる地代を受け取り，

彼をそなた付きの牧師として奉仕させなさい。 195

彼をそなたに与えよう——さ，好きなように扱うがよい。

ギャヴェストン　彼を監獄へほうり込み，繋がれたまま死なせてやろう。

エドワード王　そうだ，ロンドン塔へでも，フリート監獄へでも，  
好きな所へだ。

コヴェントリー　私へのこの侮辱の故に，お前は神に呪われるがいい！

エドワード王　誰かおるか？ この司教をロンドン塔へ連れて行け。 200

コヴェントリー　そうか，そういうことか。



エドワード王　　ギャヴェストン，その間に出かけて行き，  
彼の屋敷と財産を没収するがよい。

さ，ついて来なさい，その仕事を済ませ，無事そなたを  
連れ帰るよう護衛を付けてやろう。

205

ギャヴェストン　　司祭があんな立派な邸宅を持ってどうするのだ？  
聖職者には牢獄が一番お似合いた。

[全員退場]

## 第一幕，第二場

両モーティマー，ウォリック，ランカスター登場

ウォリック　　<sup>まこと</sup>真のことで，司教は塔に幽閉され，  
財産も身柄もギャヴェストンに委ねられたのです。

ランカスター　　何ということだ！ あの連中は教会に対して暴威を  
振るおうというのですか？

おお，悪辣な王よ！ 呪われたギャヴェストンの奴！

奴らの足に汚染されてしまったこの地面は，

5

時ならぬ死を迎える奴らの墓になるか，私の墓になるかだ。

若モーティマー　　よし，あのひねくれ者のフランス人にはしっかり  
身辺を守らせておけ；  
奴の胸が鋼鉄の如く剣をも通さぬというのでもない限り，  
必ず殺してやるぞ。

老モーティマー　　はて！ ランカスター伯爵殿は何故意気消沈して  
おられるのです？

若モーティマー　　ウォリックのガイ殿が何故にご不満なのですか？ 10

ランカスター　　あの卑劣漢ギャヴェストンが伯爵に任ぜられたのです。

老モーティマー　　伯爵ですと！

ウォリック　　そうです，その上，王国の式部長官，  
更に國務大臣，マン島総領事です。

老モーティマー　　我々はそんなことを許もしないし，許そうとも思わん。 15

若モーティマー　　何故，急ぎこの地を離れ，兵を挙げようとは  
しないのですか？

ランカスター　　「コーンウォール卿」と今や誰もが口にしたしております！  
脱帽して敬意を示したが故に，好意の一瞥を

与えられた者こそ幸せだ。

かくして、王と奴は腕を組み合って闊歩しているのだ。

20

いや、それどころか、護衛兵が閣下にお仕えし、

宮廷中が彼に媚び始めたのです。

ウォリック こうして、王の肩に寄り掛かって、

奴は通りすがりの者に頷いたり、あざ笑ったり、笑いかけたり

しているのだ。

老モーティマー あの男のことに反論する者は誰もいないのか？

25

ランカスター 誰もが怒りに駆られているが、誰一人口にする者はい

ません。

若モーティマー ああ、それではからずも連中の卑しさが表れましたな、

ランカスター殿！

貴族の方々がみな私と同じ気持ちであったなら、

我々はあの百姓奴を王の懐の中から引きずり出し、

王宮の門の上にぶら下げてやるのだが、

30

野心満々、悪辣非道な自惚れで膨れ上がり、

わが王国と我々を滅ぼそうとしている元凶なのですから。

[カンタベリー大司教と従者登場]

ウォリック カンタベリー大司教がお見えになった。

ランカスター お顔にご不興が表れている。

カンタベリー まず第一に彼の聖衣が引き裂かれ、ちぎられ、

35

それから彼の体にも暴力が加えられている、次いで、

彼自身が投獄され、彼の財産が没収された。

これが教皇様への証言だ；馬に乗って行け。

[従者退場]

ランカスター 閣下、王に対して兵を挙げられますか？

カンタベリー 私に何の必要があろうか？ 神ご自身が武器を執って

立ち上がられるのだから、

40

教会に対し暴威が振るわれるとあれば。

若モーティマー では、国王の貴族たらんとしている我々と共に行動し

てくださいますか、

あのギャヴェストンを追放するか、あるいは首をはねるために。

カンタベリー 他に何が出来よう、皆さん？ 私の身近にかかわる

ことなのだから。

コヴェントリーの司教管轄区が彼のものとなったのだから。

45

[イザベラ王妃登場]

若モーティマー 王妃さま、そう急いでどこへ行かれるのですか？

イザベラ王妃 森へ行くのです、モーティマー殿、

悲しみと苦しい満ち足りぬ思いを抱いて生きるために、

今や国王は私のことなど気にも留めてはくださらず、

ギャヴェストンを溺愛しておられるのです。

50

ギャヴェストンの頬をたたいてみたり、首にぶら下がったり、

顔を見てほほ笑み、耳元で囁いたりし、

私が近付くと、顔をしかめ、まるで、

「ギャヴェストンといるのを見たら、どこへなと好きな所へ

行ってしまえ」と言わんばかりなのです。

老モーティマー 王がそれほどに魂を奪われてしまうとは不思議な

ことではないか？

55

若モーティマー 王妃さま、もう一度王宮へお戻り下さい。

王を唆かしているあの狡猾なフランス人は我々が追放してやり

ます、さもなければ、我々自身の命を捨てるかだ；

しかし、その日が来るまでに

王は王冠を失ってしまうでしょう、我々には十分に

復讐するだけの兵力も勇気もありますから。

60

カンタベリー だが王に向かって剣をあげてはなりませんぞ。

ランカスター ええ、しかしギャヴェストンはこの国から放り出して

やります。

ウォリック 戦いをその手段とせねばならぬ、さもなければ奴は

この国に居座ってしまうでしょう。

イザベラ王妃 それなら、彼を居座らせるがよい：国王が国内の反乱で

打ちのめされるくらいなら、

65

私が鬱々とした日々を送り、

王には寵臣と浮かれ騒がせてあげた方がよい。

カンタベリー 皆さん、すべてを穏やかに収めるために、私の言葉を

お聞き下さい：

我々とそのほか王の顧問役の方々が

相集い、総意を得て、

70

我々の拍手と調印をもって彼の追放を確認いたしましょう。

ランカスター 我々が確認したことを王が無効にしてしまうでしょう。

若モーティマー その時には合法的に王に背くことができます。

ウォリック しかし、その会合をどこでいたしますか？

カンタベリー ニュウ・テンプルで。

75

若モーティマー 承知しました。

カンタベリー その時まで、どうか、皆さんは、テムズを渡って

ラムベスへお出でになり、わたしと共に過ごしてください。

ランカスター では、皆さん、参りましょう。

若モーティマー 王妃さま、お別れします。

80

イザベラ王妃 ご機嫌よう、優しいモーティマー殿、私のために

王に向かって兵を挙げるのは思いとどまってください。

若モーティマー ええ、私の言葉が役に立てばですが、さもなければ、

拳兵しなければなりません。

[全員退場]

### 第一幕、第三場

#### ギャヴェストンとケント伯爵登場

ギャヴェストン エドマンド殿、らば一頭では運びきれないほどの

伯爵領を所有される偉大なるランカスター卿、

高潔な人格者の両モーティマーが、

恐るべき騎士、ウォリックのガイと共に、

ラムベスへ行っていました。そこに居ていただくとしましょう。

5

[二人退場]

### 第一幕、第四場

ランカスター、ウォリック、ペンブルック、老モーティマー、

若モーティマー、カンタベリー大司教、従者たち登場

ランカスター これがギャヴェストン追放の書類です；

閣下、どうかご署名ください。

カンタベリー 書類をお貸してください。

[大司教署名する、続いて他の者も署名する]

ランカスター 急いでください、急いで、閣下；私も早く署名したくて  
たまらんですから。

ウォリック それ以上に奴が追放されるのを見たいものだ。 5

若モーティマー モーティマーの名は王を脅かすことだろう、  
あの卑しい百姓を打ち捨てるのでなければ。

[エドワード王、ケント、ギャヴェストン登場]

エドワード王 どうしたのだ？ お前たちはギャヴェストンがここへ  
座っているので驚いているのか？

これは余の意志なのだ；そうさせるぞ。

ランカスター 陛下が彼をお側に置かれるのは当を得たことと存じます、  
新伯爵にとってこれほど安全な場所はありませんから。 10

老モーティマー 高貴な生まれの者には見るにたえない眺めではないか？  
「この二人、互いに何たる不釣り合い！」

あの百姓の奴、何と嘲りの目を向けていることか？

ペンブルック 王者たる獅子が地をほう蟻にへつらえるものか？ 15

ウォリック 浅ましい下種め、パエトンさながらに、  
太陽の戦車を導く野望に燃えているとは。

若モーティマー 彼らの没落は目前だ、兵力も落ちている。

こうも威張られ、見くだされてばかりはいないぞ。

エドワード王 反逆者モーティマーを捕らえろ！ 20

老モーティマー 反逆者ギャヴェストンを捕らえろ！

ケント これが国王に対しあんたたちが尽くすべき本分なのか？

ウォリック 我々の本分なら尋ねるまでもあるまい、王にこそ貴族の  
ことを知ってもらいたいのだ。

エドワード王 彼をどこへ連れていこうというのだ？ 待て、  
さもなければ、お前たちの命はないぞ。

老モーティマー 我々は反逆者ではない；それ故、脅かすのは  
お止めください。 25

ギャヴェストン そうです、陛下、脅かすのは止めて、お返しをして  
やってください。

私が国王であったなら――

若モーティマー 悪党め、何だって国王だったならなんて言うのだ、  
紳士にもなれないような生まれのくせに？

エドワード王 たとえ彼が百姓だったとしても、私の寵臣であるからには、 30  
お前たちの中の傲慢極まりない者でも彼に身を屈めさせてやるぞ。

ランカスター 陛下、我々をそんなに見くびってはいけません。

行け、さあ、このいまましいギャヴェストンを連れて行け！

老モーティマー それから彼を鼻屑にしていたケント伯も一緒にだ。  
[従者たち、ケントとギャヴェストンを連れて退場]

エドワード王 いや、それなら、お前たちの王に暴力を振るうがよい。 35  
さあ、モーティマー、エドワードの王座にすわるがよい。

ウォリック、ランカスター、お前たちは私の王冠をかぶれ。

王たる者が私のようにかくまで抑圧を受けたことがあるか？

ランカスター では、我々と王国をもっと良く統治することを  
学ばれるがよい。

若モーティマー 我々がしたことを、我々の心血が守ってくれよう。 40

ウォリック あの成り上がり者の傲慢さを我慢できるとお考えか？

エドワード王 怒りと憤激で言葉も出ない。

カンタベリー 何故そのようにお怒りなのか？ 辛抱なさって  
ください、陛下、

そして、あなたの顧問役たる我々が為したことを

よくご覧になってください。

若モーティマー さあ、皆さん、決意を固めましょう、 45  
意志を貫くか、命を失うかのどちらかです。

エドワード王 そのために集まったのか、傲慢かつ大胆な貴族たちよ？

愛しいギャヴェストンが私から引き離されるくらいなら、

その前に、この島が大海に浮かび、

人が滅多に通わぬインドへと漂流してしまえばよい。 50

カンタベリー 私が教皇の特使であることはご存じでしょう；

ローマ教皇庁への忠誠を表し、

我々が為したと同様に彼の追放に署名なさるがよかろう。

若モーティマー もし拒んだなら王を破門しなさい、そうすれば、

王を退位させ、別の王を選ぶことができます。 55

エドワード王 そうか、そういうことになるのだな！ しかし、私は

負けたりしないぞ；  
破門させてみろ，退位させてみろ，お前たちにできる最悪の  
ことをやってみろ。

ランカスター　では，閣下，ぐずぐずしないで早速やってください。  
カンタベリー　コヴェントリーの司教がどんな侮辱を受けたか，思い出  
してご覧なさい。

その災いの元凶となった奴を追放なさい，  
さもなければ，私は直ちにここにおられる貴族の方々を  
国王たるあなたへの義務と忠誠から解放してやりますぞ。  
エドワード王　脅しても役には立たぬ；言葉巧みに話をしなくては  
なるまい。

教皇の特使には従わなくてはならぬ。 [傍白]

閣下，あなたは我が国の大法官におなりなさい。 65

ランカスター，あんたは我が海軍の司令長官に；  
若モーティマーとその伯父御は伯爵に任じよう，  
また，ウォリック卿，あんたは北部の，  
また，ペンブルック卿，あんたはウェールズの長官に任命しよう。  
もし，それでも不足なら，

この王国を数カ国に分割し 70

あんたたち皆で平等に分ければよい，  
私にはどこか片すみを残してもらい，  
最愛のギャヴェストンと楽しく戯れることが出来ればよいから。

カンタベリー　何事であろうと我々は変わりません。決意を  
したのですから。

ランカスター　さあ，さあ，署名をしなさい。 75

若モーティマー　世間がこれほど嫌っている者を何故寵愛なさるのですか？

エドワード王　全世界よりも大きな愛で私を愛してくれるからだ。

粗野で残忍な心を持ったものでなければ  
私のギャヴェストンの破滅を願ったりはすまい；  
高貴な生まれのそなたたちこそ彼に同情してもよいのではないか。 80

ウォリック　王家の生まれのあなたこそ彼を振り捨てるべきです。

恥を知るなら署名をなさい，そしてあの卑しい男を出発  
させてください。

老モーティマー 閣下、王に急いで頂いてください。

カンタベリー あなたは彼をこの王国から追放することに同意なさい  
ますか？

エドワード王 そうせざるを得ないと分かっている、それ故同意する。 85  
インクの代わりに私の涙で署名しよう。

[王、署名する]

若モーティマー 王はあの寵臣に恋患いをしているのだ。

エドワード王 署名をしてしまった、さあ、呪われたこの手よ、崩れ  
落ちてしまえ！

ランカスター その確認書をください；道々に公示しましょう。

若モーティマー 私が彼を直ちに立出させましょう。 90

カンタベリー これで私も心もから安堵した。

ウォリック 私もです。

ペンブルック これは一般民衆にとっても良い知らせとなりましょう。

老モーティマー いずれにせよ、彼をここにぐずぐずさせてはおかぬ。

[エドワード王を除いて全員退場]

エドワード王 私の愛するものを追放するために何と急いで走って  
行ったことか。

私のために何かするとなれば、動こうともしないのに。 95

何故王たるものが坊主ごときに服従しなければならんのだ？

あれほど尊大な下郎どもを躰した、傲慢なローマよ、

お前のキリスト教に背いた礼拝堂を輝かせた、

この迷信めいたお前の蠟燭の光ゆえに、

お前の崩れ落ちた建物に火を放ち、教皇宮の尖塔を 100

卑しい地面に口づけさせてやろう。

坊主どもを虐殺し、その血でタイベー河の水嵩を増し、

その死体で土手をもっと高く盛り上げてやる。

僧侶たちを後押ししたあの貴族たちについて言えば、

王たる私が奴らの一人たりとも生かしてはおくものか。 105

[ギャヴェストン登場]

ギャヴェストン 陛下、私が追放され、この国を出て行かなければなら  
ないと、いたるところで囁かれているのを聞きましたが。

エドワード王 その通りなのだ、愛しいギャヴェストン——おお、嘘で



あつたらよいのに！

教皇特使がそうしようとしているのだ、

それで、そなたは国外へ出て貰わねばならない、さもなければ、

私が退位させられてしまうのだ。 110

だが私は国王として留まり、奴らに復讐をしたいのだ、

それ故、愛しい友よ、辛抱してくれ。

そなたがどこで暮らそうとも、金は十分に送ってやる；

永くその俣にしておかない、もしそんなことになれば、

私がそなたの許へ行こう；私の愛は決して変わったりしないから。 115

ギャヴェストン 私の希望はすべてこの地獄のような悲しみが変わって  
しまったのか？

エドワード王 胸を突き刺すような言葉で私の心を引き裂かないでくれ。

そなたはこの国から、私は私自身から追放されたのだ。

ギャヴェストン この国を出ることが哀れなギャヴェストンを悲しませ  
ているではありません、

慈しみに溢れたお顔に、ギャヴェストンの幸福が留どまる 120

その陛下とお別れすることが悲しいのです；

他のいかなる場所にも幸せは見いだせませんから。

エドワード王 そしてこの私の悲痛な心を苦しめるのは、私が望もうと  
望むまいと、そなたがこの国を出て行かなければならんという

ことだけなのだ。

私に代わってアイルランド総督となり、幸運がそなたを 125

呼び戻してくれるまで、彼の地に留まってくれ。

さあ、私の肖像画を受け取ってくれ、そしてそなたの絵を

私の身に付けさせてくれ；

[二人肖像画を交換する]

ああ、今こうしているように、そなたをこの手の内に留めて

おけるものなら、

いかに幸せなことか、しかし現実には惨め極まりないのだ。

ギャヴェストン 王に哀れまれるとは大変なことだ。 130

エドワード王 そなたを行かせたりはしない；匿ってやるぞ、

ギャヴェストン。

ギャヴェストン 探し出されてしまうでしょう、さすれば私の悲しみ

は一層深くなりましょう。

エドワード王 優しい言葉で語り合えば我々の悲しみはますます大きくなってしまう；

それ故、黙って抱き合ったまま別れよう——

待ってくれ、ギャヴェストン、このような形でそなたと別れる

ことなど出来ない。 135

ギャヴェストン お顔を拝見する毎に涙が一滴ずつこぼれます；

私が行かねばならぬとご承知なら、私の悲しみを新たにさせ

りしないでください。

エドワード王 そなたがこの地に留どまれる時間はもう殆どない、

だから心行くまでそなたを眺めさせてくれ。

さあ、愛しい友よ、途中まで送って行こう。

140

ギャヴェストン 貴族たちは眉をしかめますでしょう。

エドワード王 奴らの洩面など気にするものか。さあ、行こう。

おお、こんな風にして、出掛ける時と同様に戻ることが

できれば良いのだが。

[イザベラ王妃登場]

イザベラ王妃 陛下、どちらへお出掛けですか？

エドワード王 私に媚びるな、フランスの淫売め、退っておれ。

145

イザベラ王妃 夫以外のどなたに媚びろとおっしゃるのですか？

ギャヴェストン モーティマーにでしよう、不柔順な、王妃よ——

これ以上は申しません、後にご判断ください、陛下。

イザベラ王妃 そんなことを言えば、私を中傷することになりますよ、

ギャヴェストン。

あなたは陛下を墮落させ、売春宿の女将のように

150

陛下のきまぐれなご気性の取り持ちをするだけでは足らず、

このように私の貞節を疑うようなことまで言わなければ

ならないのですか？

ギャヴェストン そのような心算はありません；どうぞお許し下さい、

王妃さま。

エドワード王 そなたはあのモーティマーとあまりに馴れ馴れしくは

ないかね、

そなたのためにギャヴェストンは追放されたのだ。

155

そなたに貴族たちとの和解の労を取って貰いたい、  
さもなければ、そなたは私とは決して和解できないぞ。

イザベラ王妃 私にはそのような力がないことを陛下はご存じでしょう。

エドワード王 では、退れ；私に触るな。さあ、ギャヴェストン。

イザベラ王妃 悪党、陛下を私から奪ってしまったのはお前なのだ。 160

ギャヴェストン 王妃さま、あなたこそ私から陛下を奪ったのです。

エドワード王 その女に話しかけるな；悲しもうと、窶れようと  
好きにさせておくがよい。

イザベラ王妃 陛下、私は何故そのようなお言葉を受けなければならない  
いのですか？

イザベラの流す涙を見ればお分かりになるでしょう、  
あなたを慕って、張り裂けんばかりのこの心の証となりましょう、 165  
哀れなイザベラにとって、陛下がどれほど愛しいお方か——

エドワード王 天も照覧あれ、そなたが私にとってどんなに愛しいか。  
そこで泣いているがよい；私のギャヴェストンの追放が撤回  
されるまで、

断じて私の目の前に姿をあらわすな。

[エドワード王とギャヴェストン退場]

イザベラ王妃 おお、惨めな、悩み苦しむ王妃よ！ 170

私が船に乗って懐かしいフランスを出立する時、  
あの魔法使いのキルケが、波の上を歩いて来て、  
私の姿を変えてしまうか、あるいは婚礼の日に、  
ヒュメンの杯が毒で満たされるか、  
もしくは、私の首に巻き付いたあの腕で 175  
窒息させられて、生きて

夫である陛下がこれ程に私を見捨てるのを見ずに済めば  
よかったのに。

狂乱のユノーのように、私の溜め息と泣き叫ぶ  
恐ろしいつぶやきで地上を満たしてやろう、  
ユピテルといえども、我が夫が呪うべきギャヴェストンを  
溺愛するほどには、 180

ニュメデスに溺れたことはなかったのだ。

でも、そうすれば王の怒りをますます募らせることになるろう；

王に嘆願し、穏やかな口調で話をし、  
 ギャヴェストンを帰国させる手だてとならなければならない。  
 そうしてもなお、王はギャヴェストンを溺愛し続けるだろうし、  
 私もいつまでも惨めなままなのだ。 185

[ランカスター、ウォリック、ペンブルック、老モーティマー、  
 若モーティマー登場]

ランカスター　ご覧なさい、フランス国王の妹君であられる方が手を握り締め、胸を叩いておられる様子を。

ウォリック　王が酷い仕打ちをなさったのだろう。

ペンブルック　聖女のような方のお心を気づつけるとは何と無情な人間だろう。 190

若モーティマー　ギャヴェストンのせいで泣いておられるのだ。

老モーティマー　だが、彼は追放されたのだろう。

若モーティマー　王妃さま、どうなされました？

イザベラ王妃　おお、モーティマー殿！　今や王の憎しみが爆発し、私を愛していないとおっしゃったのです。

若モーティマー　では、王妃さま、対等になさい、王を愛するのをお止めなさい。 195

イザベラ王妃　いいえ、そうする位なら何千回でも死んだ方がましです、でも、愛してもむだなのです；王は決して私を愛してはくださらないでしょう。

ランカスター　ご懸念には及びません、王妃さま、王の寵臣がいなくなつたからには、

王の気まぐれもたちまち消えてしまうでしょうから。

イザベラ王妃　いいえ、ランカスター殿、決してそうはなりません！

私は皆さんにギャヴェストンの追放撤回をお願いするよう申し付けられたのです。 200

陛下がそれを望んでおられるし、私もそうしなければならぬのです。

そうしなければ、私が陛下の御前から追放されてしまうのです。

ランカスター　王妃さま、彼の追放を取り消せと言われるのですか？  
 海が、難破した船の中から、奴の死体を打ち上げてでもくれないか

ぎり、奴は帰ってはきませんよ。 205

ウォリック　それほど気持ちのいい光景を眺めるために、

自分の馬を死ぬほど走らせようとしない者などここにはいませんよ。

若モーティマー　しかし、王妃さま、あなたは我々に奴を呼び戻せと  
おっしゃるのですか？

イザベラ王妃　そうです、モーティマー殿、彼が戻るまでは、お怒りにな  
っている王が私を宮廷から追放してしまわれたからです；ですから、 210  
私を愛し、慈しんでくださるなら、

ここにおられる貴族の方々に対して、私の擁護者となってください。

若モーティマー　何ですと、私にギャヴェストンのために嘆願しろと  
おっしゃるのですか？

老モーティマー　彼のために誰が嘆願しようとも、私の決意に変わり  
はないぞ。

ランカスター　私とても同様です、閣下、王妃さまにお気持ちを  
変えるよう説得してください。 215

イザベラ王妃　おお、ランカスター殿、彼に、王がお気持ちを変えるよ  
う説得してもらってください。

ギャヴェストンが帰国するのは私の意志に反することですから。

ウォリック　では、奴のために懇願などするのは止めましょう；あんな  
百姓のことなど放っておきましょう。

イザベラ王妃　私がお願いするのは、私自身のためで、彼のためでは  
ありません。

ペンブルック　何をおっしゃっても我々の決意を変えることは  
出来ません；ですからお止めください。 220

若モーティマー　王妃さま、捕まると、死んだと思っているその人間に  
一撃を食らわすような魚を釣ろうとするのはお止めなさい。

つまり、あの卑しいシビレナマズ、ギャヴェストンのことですが、  
彼は今頃はアイルランドの海域を航行中だと思いますが。

イザベラ王妃　愛しいモーティマー、しばらくの間私の側に座って  
ください、 225

あなたが彼の追放取り消しの書類に直ちに署名をしてしまう程の重大  
な理由をお話しいたしますから。

若モーティマー そんなことをする筈はありませんが、お気持ちをお聞かせください。

イザベラ王妃 では、こういうことです、でも、私たち以外のものには聞かせたくありません。

[王妃、他の者から離れて、モーティマーに話す]

ランカスター 皆さんも、王妃がモーティマー殿を説き伏せたとしても、心を固め、私を支持してくれますか？ 230

老モーティマー 私は出来ません、甥と対立は出来ません。

ペンブルック ご心配には及びません、王妃の言葉が彼の心を変えたり出来はしませんよ。

ウォリック そうだろうか？ ご覧なさい、王妃がいかに熱心に懇願していることか。

ランカスター そして、ご覧ください、彼の顔がいかに冷たく拒絶を表していることか。 235

ウォリック 王妃がほほ笑んでいるぞ；今度は間違いなく彼の気持ちが変わったのだ。

ランカスター 私は、私は、彼との友情を失った方がよい、ギャヴェストンの追放撤回を認めるくらいなら。

若モーティマー では、そうせざるを得ませんな。

皆さん、あなた方は、私がギャヴェストンを忌み嫌っていることを疑ってはおられないと思います、 240

ですから、私が彼の追放撤回を願ったとしても、

それは彼の為ではなく、我々の為になることなのです；

いや、我が王国の為であり、王ご自身の為にもなるのです。

ランカスター 何ですと、モーティマー、あんた自身を辱めるようなことは止めなさい！

奴を追放するのが良いことだった、というのが真実なのか？ 245

そして又、奴を呼び戻すのも正しいということか？

そんな理屈は白を黒と、暗黒の夜を昼と言い張るのも同様だ。

若モーティマー ランカスター殿、特別の事情に留意してください。

ランカスター どんな点から考えても、相反するものが共に真実だなんてことはありませんよ。

イザベラ王妃 でも、伯爵、彼が申し立てられることはお聞きになって

みてください。 250

ウォリック　彼が何を話しても一切役には立ちません；我々は決意  
しているのですから。

若モーティマー　あなた方はギャヴェストンが死ぬのを望んではない  
のですか？

ウォリック　そうあって欲しいものだ。

若モーティマー　それなら、伯爵、私に話をさせてください。

老モーティマー　だが、詭弁を弄してはならんぞ。 255

若モーティマー　私がここで力説することは、王の言動を改めさせ、同  
時に我が国に益を齎さんとする激しい熱意によるものです。

皆さんはギャヴェストンが多く黄金を蓄えており、  
それによって、奴が、我々の中の最強の者にも敢然と立ち向かえる程  
の味方をアイルランドにおいて募ることが出来るのを

ご存じないのですか？ 260

奴が愛され、生きている所では、  
奴を打ち倒すのは困難なことです。

ウォリック　話だけを聞いておあげなさい、ランカスター殿。

若モーティマー　だが、忌み嫌われながらも、奴がここにいたなら、  
誰か卑しい輩がいともたやすく買収され、 265

伯爵閣下に短剣をお見舞いし申し上げ、  
しかも、その殺人者を非難する者としてなく、  
むしろ、立派なことをやったと称賛し、  
我が国から疫病を取り除いたということで、  
年代記の中にその名が記されることになりましょう。 270

ペンブルック　彼のいっていることは真実だ。

ランカスター　全くだ、しかし、どうしてもっと以前にそうしなかった  
のだ？

若モーティマー　それは、皆さん、思い付かなかったからです。

いや、それ以上に、奴を追放したり、呼び戻したりする力が我々にあ  
るのだということを奴に分からせたなら、 275

高々と掲げられた傲慢という奴の旗印を降ろさせ、  
最も身分の低い貴族の感情を損なうのも恐れるようになるでしょう。

老モーティマー　しかし、奴がそうしなかったらどうするのだ？

若モーティマー その時には、口実を付けて兵を挙げる事が出来ます；  
 我々がそれをいかに声を大にして叫んだとしても、 280  
 王に向かって立ち上がれば反逆になってしまいます、  
 それ故、我々は民衆を味方につけましょう、  
 彼らは先王を慕って王の側に傾きましょう、  
 だが、一夜にして大きくなった茸が、  
 コーンウォール卿のような方のことですが、 285  
 我々貴族を押しえ付けるのには我慢できません。  
 そこで、貴族と一般民衆が手を握れば、  
 王といえどもギャヴェストンを護ることは出来ないでしょう。  
 奴を、奴の最強の拠り所から引き離してやりましょう。  
 皆さん、このことを遂行するに当たって私が手を緩めるよう  
 であれば、 290

私をギャヴェストン同様の卑しい下司と見なしてください。

ランカスター そういう条件でなら、このランカスターは認めましょう。

ウォリック ペンブルック伯と私も認めます。

老モーティマー 私も。

若モーティマー このことを大変嬉しく思います、  
 このモーティマーは皆さんの意のままです。 295

イザベラ王妃 このご好意をイザベラが忘れるようでしたら、  
 見捨てられた、侘しい日々を送らせてください。  
 ご覧なさい、丁度よく陛下が、  
 追放されるコーンウォール伯爵を見送られて、  
 お帰りになられました。この知らせで大層喜ばれることでしょう、 300  
 でも、私程ではないでしょう。私は陛下を  
 陛下がギャヴェストンを愛するよりも愛しているのだから；  
 陛下がその半分でも私を愛してくださるなら、  
 三倍も幸せになれるのに！

[エドワード王、悲しみにくれながら登場]

エドワード王 彼は行ってしまった、居なくなってしまったことを  
 こうして悲しんでいるのだ。

愛しいギャヴェストンが居ないということ程に 305  
 深い悲しみに心を奪われたことがあっただろうか；



国王としての私の歳入で彼を呼び戻すことができるなら、  
 彼に敵対する者たちに好きなだけ与え、  
 これ程愛している友を買い戻せたのだから、得をしたと

思えるのだが。

イザベラ王妃 お聞きなさい、寵臣のことを何度も、何度も  
 おっしゃって。 310

エドワード王 私の心は悲しみという槌に打たれる金床のようなものだ、  
 それがキュクロプスの打ち降ろす鉄槌のように打ちつけ、  
 その凄まじい音が私のくらくらする頭をいらだたせ  
 狂おしく愛するギャヴェストンを求めさせるのだ。  
 ああ、冷血な復讐の三女神の誰かが地獄の底から立ち上り、 315  
 我が王笏で私を打ち殺してくれればよかったのだ、  
 愛しいギャヴェストンの追放を強いられた時に。

ランカスター 何たることだ！ それ程までに悲しいのか？  
 イザベラ王妃 お優しい陛下、お知らせを持ってまいりました。  
 エドワード王 そなたのモーティマーと話し合ったということだろう。 320  
 イザベラ王妃 陛下、ギャヴェストンの追放が取り消しになるのです。  
 エドワード王 追放取り消し？ あんまり良すぎる知らせで真実とは  
 思えん程だ。

イザベラ王妃 でも、それが本当だとお分かりになったら、私を愛して  
 くださいますか？

エドワード王 本当ならエドワードの為さぬことなどあろうか？  
 イザベラ王妃 ギャヴェストンの為なのですね、イザベラの為ではなく。 325  
 エドワード王 美しい王妃よ、そなたの為だ、そなたがギャヴェストン  
 を愛してくれるならね；

そなたの首に黄金の舌をぶら下げて上げよう、  
 こんなにも巧く説きつけてくれたのだから。

イザベラ王妃 私の首には、あなたのこの腕に優る宝石などありません、  
 陛下、この豊かな宝庫から取り出せる以上の 330  
 富も欲しくはありません。

おお、たった一度の口づけが哀れなイザベラをどんなに  
 甦らせてくれることでしょう！

エドワード王 もう一度この手を取ってくれ、こうすることで

私とそなたとが二度目の結婚をしたことにしよう。

イザベラ王妃　そして、今度の結婚が最初のよりもより幸せなものとなり  
ますように。 335

陛下、ここにおります貴族たちに優しいお言葉をかけてあげて  
ください、

陛下の慈しみ深いお顔を拝し、跪いてご挨拶しようと  
待ち望んでいるのです。

エドワード王　勇敢なランカスター、そなたの王を抱いてくれ。  
立ちこめた濃霧も太陽の前には跡形もなくなるように、 340  
そなたの憎悪もそなたの君主の微笑で消えて欲しいのだ。  
私の友人として、私と共に生きてくれ。

ランカスター　そのようなご挨拶を頂き、私の心は狂喜いたしております。

エドワード王　ウォリック卿には私の最高顧問になっていただきこう。  
あなたのその銀色の髪は華やかな絹ものや、贅沢な縁取りの 345  
ある衣装よりも、私の宮廷を飾ってくれることであろう。  
私が道を外したなら、ウォリック殿、私を正しく導いてくれ。

ウォリック　陛下、私が陛下に対して罪を犯しましたら、私の命を  
召し上げてください。

エドワード王　祝賀の催しや、公式の行事のある際に、  
ペンブルック卿には剣を捧げ先導の役をお願いしたい。 350

ペンブルック　その剣をもってペンブルックは王の為に戦いましょう。

エドワード王　だが、若モーティマーは何故、皆と離れて歩いて  
おるのだ？

そなたは我が艦隊の司令官になりなさい；

もし、その高位の職に就くのを好まぬなら、

ここで、そなたを我が王国の陸軍元帥に任じよう。 355

若モーティマー　陛下、このイングランドが平穏であり、陛下ご自身が  
安穩に過ごされますよう、陛下の敵に対し、全軍に万全の  
配備を命じます。

エドワード王　そして、チャークのモーティマー卿、我が対外出兵の際  
のそなたの華々しい功績は  
ありふれた地位、くだらぬ褒賞ではこと足りぬ、 360  
今や、スコットランド軍攻撃のための準備の整った

召集軍の將軍とおなりなさい。

老モーティマー そのお言葉で、陛下は私に大いなる榮譽をお与えくださいました、

生来、私には戦が一番合っておりますので。

イザベラ王妃 今こそ、イングランド王は富裕強大になられたのです、  
名だたる貴族たちの愛を得られたのですから。 365

エドワード王 そうだ、イザベラ、私の心がこれ程軽くなったことはない。

王室書記官、王の認可書を直ちに

アイルランドのギャヴェストンに届けてくれ。

[ボウモント登場]

ボウモント、

イーリスやユピテルの使者メルクリウスに劣らぬ速さで

飛んで行け。 370

ボウモント 仰せのとおり、陛下。

[ボウモント退場]

エドワード王 モーティマー卿、そなたには自由にして頂こう。

さあ、我々は中に入り、盛大な宴を催そう。

我がコーンウォール伯爵の帰国に備えて、

公式の馬上槍試合、馬上試合を催し、

それから、彼の婚礼の儀を執り行おう；私が彼と

私の姪、グロースター伯爵の嗣子を結婚させることにしたのを

諸卿もご存じのことと思うが？

ランカスター そのように伺っております、陛下。

エドワード王 その日、彼の為ではなくとも、私の為に、

祝賀の催しにおいて、挑戦者となった者は、

費用を惜しまずともよいぞ；その者の愛にはきっと報いるぞ。

ウォーリック このこと、その他いかなることでも陛下の仰せに従います。

エドワード王 嬉しく思うぞ、ウォーリック卿、さあ、中に入り、大いに楽しもうぞ。

[両モーティマーを残し、全員退場]

老モーティマー さて、甥よ、私はスコットランドへ行かねばならぬ；

お前はここに残るのだな。 385

今は王に逆らうのは止めたほうがよい。

お前も知っておるように、王は生来優しく、穏やかな方だ、  
王のお心がギャヴェストンに溺れているのだから、  
逆らったりせず、お好きなようにさせてあげなさい、  
この上なく強大な王といえども寵臣があったのだ。 390

アレクサンダー大王はヘフェステイオンを愛した；  
征服者ヘラクレスはヒュロスの為に泣いた、  
厳格なアキレウスはパトロクロスの故にうなだれたのだ。

国王たちのみならず、賢人たちもだ：  
ローマのタリウスはオクテヴィアスを愛した、 395  
謹厳なソクラテスは奔放なアルキビアデスを。

それ故、柔軟な若者であり  
我々が望み得る限りの前途を約束された陛下には  
あの愚かで、思慮分別に欠けた伯爵を愛でさせておくがよい、  
円熟する年齢になれば、あんな愛玩物などからは離れて

しまわれるだろうから。 400

若モーティマー 叔父上、王の気まぐれな気質を嘆いているのでは  
ありません；

だが、あんな生まれの卑しい者が王の寵愛をかさにきて、  
あれ程大きな顔をし、王国の財宝を費やして、放埒な暮らしをしてい  
るのを潔しと思えないのです。

兵士たちが給料の不払いの故に反乱を起こしているというのに、 405  
奴は伯爵の歳入を衣服さながら身にまとい、

下賤な外国人のならず者を後に従えて、ミダスよろしく  
宮廷内をもったいぶって歩き回っている、  
奴らの華やかで奇想天外なお仕着せは、見世物まがいで、  
まるで変幻自在の神、プロキュースのお出ましといったところだ。 410

あんな威勢の良い、ばりっとした男は見たことありませんよ。

奴は丈の短い、真珠で飾り立てたイタリヤ風の  
頭布付き外套を着用におよび、タスカニア帽には  
王冠にも優る高価な宝石が一個着けてあるのです。

他の者たちが下を歩いている時、王と奴は 415

上の窓から我々を見下ろし、  
我々の供の者をあざ笑い、衣装をからかったりするのです。

叔父上、私が我慢ならないのはそのことなのです。

老モーティマー　しかし、甥よ、お前も見るとおり王は変わられた。

若モーティマー　では、私もそうしましょう、そして王に尽くすことに  
 しましょう。 420

だが、私がこの剣、この手、この心を持っている限り、

あんな成り上がり者には屈服などしませんぞ。

この考えはをご承知おきください；さあ、叔父上、参りましょう。

[二人退場]

## 第二幕、第一場

### 若スペンサーとボールドック登場

ボールドック　スペンサー殿

我々の君主グロスター伯爵が亡くなられましたからには、

どちらの貴族にお仕えになれるお考えですか？

若スペンサー　モーティマーやその一派はご免です、

王と彼とは反目し合っておりますから。

5

ボールドック殿、このことは心に留めておいてください：党派がらみ  
 で王と反目するような貴族は自分に利することなど

何もできませんし、我々の利益になどなりはしません、  
 だが国王の寵愛を受けている方ならば

我々が生きている間に、唯の一言で我々を引き立ててくれる

かも知れません。

気前の良いコーンウォール伯爵こそ

10

その幸運にスペンサーが希望を託す方なのです。

ボールドック　何ですと、ではあなたは彼の追随者になるつもりですか？

若スペンサー　いいや、彼の友人となるのです。彼は私を大層気に入っ  
 てくれて、王に推挙してくれようとしたこともあるのです。

ボールドック　しかし、彼は追放されたではないか；彼にはあまり期待  
 できないでしょう。 15

若スペンサー　そうです、暫くの間はね；だが、ボールドック、結末を  
 ご覧なさい。

私の友人が密かに伝えてくれたことによれば、

彼は追放が解かれ、帰国を促す使者が再び派遣されたのです、  
そして、つい今し方、伯爵令嬢宛の王の親書を携えた  
宮廷からの使者がやって来たところでは、

20

それを読んだ令嬢がほほ笑んだのを見ると、親書には令嬢が  
想いを寄せている、ギャヴェストンに係わるものと思われま

ボールドック 確かにありそうなことだ、彼が追放されてからというも  
の令嬢は外を歩くことも、人に見られるような所へ行かれること  
もなかったのだから。

だが、私はこの結婚の話は壊れてしまい

25

彼の追放で令嬢の気持ちも変わってしまったものと思っ

ていました。

若スペンサー 令嬢の初恋はぐらついたりしませんよ；

命に賭けても断言できます、令嬢はギャヴェストンと結婚します。

ボールドック では、私は令嬢の推挙で取り立てていただけるでしょう、  
子供の頃から令嬢に読み書きを数えてきたのですから。

30

若スペンサー では、ボールドック殿、学者の風貌を投げ捨て、  
紳士らしく、宮廷におもねることを学ばなければなりませんぞ。

学生風の黒いコート、小さい襟飾り、

前面にサージの縁飾りを付けたヴェルヴェットのケープ付き

外套を着用し、

一日中、花の香を嗅いでいたり、

35

手にナフキンを持ったり、

食卓の端の辺りで長いお祈りをしたり、

貴族に向かって片脚を引いて会釈を試みたり、

あるいは、瞼を閉じて、俯きながら、

「真実、閣下のお気に召すのでしたら、」などと言ったりすることで、

40

お偉い方々の愛顧を得ることなど出来ませんよ；傲慢、大胆、陽気で  
断固とし、

好機至れば、時には、人を刺す事もしなければなりませんよ。

ボールドック スペンサー殿、私がそんな形式だけのくだらんことが嫌  
いで、唯の見せ掛けだけでしているのをご存じでしょう。

45

今は亡きあの方は、生前には大変厳しく、

私のボタンのかけ方にも苦言を吐かれ、

ピンの頭ほどに小柄だったので、私ที่ใหญ่いことにも文句を  
言われた位だ；

その為、私は牧師のような服装をせざるを得なかった、  
だが、内々では、放縱を極め、  
悪事なら何にでも喜んで手を出したものです。  
口を開けば、必ず「何となれば」と言い出す、その辺りの  
物知り顔の手合いとは違いますからな、この私は。

若スペンサー　だが、「何となれば」とおっしゃる方々のお一人で  
流暢な言葉を使う特別の才能を持っていらっしゃるという  
わけですか。 55

ボールドック　冗談は止してください；ほら、令嬢がお見えですよ。

[王姪登場]

姪　彼が追放された悲しみよりも  
彼が帰国するという喜びの方が遙かに大きいわ。  
この手紙は愛するギャヴェストンからのもの。  
愛する人よ、何故ご自分のことでこんなに弁解する必要がある  
のでしょうか？ 60

あなたが私をお訪ねになれなかったのは分かっておりました。  
「たとえ死のうとも、必ず近いうちにお目にかかりに参ります。」

[読む]

この言葉があの方の真実の愛を語っているわ。

「あなたを見捨てることならば、死が我が心を奪うでしょう。」

[読む]

でも、ギャヴェストンさまがおやすみになられることになるここに  
お前も休むがよい。 65

[手紙を胸に納める]

さあ、今度は陛下からのお便りだわ。

陛下は私が宮廷に赴き、

ギャヴェストンさまとお会いするよう望んでおられる。私は

このままここにとどまっていたいいのかしら、

陛下が私の婚礼の日のことをこんな風におっしゃってくださって

いるのに？

そこにいるのは誰？　ボールドック！ 70

馬車の準備をしてください；出掛けなければなりません。

ボールドック　かしこまりました、お嬢様。

姪　庭の囲いのところへ直<sup>ただち</sup>に来てください。

[ボールドック退場]

スペンサー、あなたはここにいて、私と一緒に来てください、

あなたに伝える嬉しい知らせがあります。

75

私のコーンウォールさまがご帰国になり、

私たちと前後して宮廷にお着きになるようです。

若スペンサー　国王さまがあの方をお再び呼び戻されるだろうと

存じておりました。

姪　万事私の望み通りになるようなら、

スペンサー、あなたのご尽力を忘れてはしませんよ。

80

若スペンサー　謹んで御礼申し上げます。

姪　さあ、案内してください；一刻も早く宮廷に着きたいのです。

[二人退場]

## 第二幕、第二場

エドワード王、イザベラ王妃、ランカスター、若モーティマー、

ウォリック、ペンブルック、ケント及び従者たち登場

エドワード王　風向きは良好だ；何故彼はぐずぐずしているのだ；

海上で船が難破したのではないか。

イザベラ王妃　ご覧なさい、ランカスター、あんなにお気持ちを高ぶら

せて、今もあの寵臣にお心を奪われているのですわ。

ランカスター　陛下――

5

エドワード王　何事だ！ 何の知らせだ？ ギャヴェストンが着いたのか？

若モーティマー　ギャヴェストンのことばかりだ！ 陛下、一体どうい

うお心算なのですか？

お考えになるべきもっと重要なことがあるのではありませんか；

フランス王がノルマンデイに上陸したのですぞ。

エドワード王　くだらん！ その気になったら何時でも追い払ってやるわ。

10

だが、モーティマー、私が布告した

馬上試合の盾に描く図柄や銘について聞かせてくれないか？



若モーティマー つまらないものです、陛下、お聞かせする程のものはありません。

エドワード王 どうか話してくれないか。

若モーティマー それほどお望みなら、つまりこんな具合です： 15

美しく繁茂した、一本の大きな杉の木があり、  
その梢には王者然とした鷲たちが止まっており、  
そして、その幹を一匹の害虫が這い上がって  
遂にその頂きにまで達するというものです；  
銘は、「遂には対等に」というのです。 20

エドワード王 で、ランカスター伯爵、そなたのは？

ランカスター 陛下、私のはモーティマー殿のよりも更にあいまいです。

プリニウスが述べるところによれば、一匹の飛び魚がおり  
それを他の魚たちが忌み嫌っている、  
そこで、追いかけられた魚は空に飛び上がる。 25

飛び上がるや否や、鳥が待ち構えていて  
それを捕らえてしまう；この魚に、陛下、私が持たせた  
銘は、こうです：「何処にても死あり」

エドワード王 傲慢なモーティマー、無情なランカスター！

これが主君にたいして抱くあんたたちの愛なのか？ 30

これがあんたたちの和解が生み出した果実なのか？

そなたたちは言葉では親睦を装いながら、

盾には心に残る遺恨を露わに見せるのか？

これをコーンウォール伯爵と我が弟に対する

秘かな誹謗という以外何と言えるのだ？ 35

イザベラ王妃 あなた、大丈夫ですよ；皆あなたを愛しているのですから。

エドワード王 私のギャヴェストンを嫌っている者は私を愛してなぞ  
いないのだ。

私が杉の木だ、私をあんまりひどく揺さぶらないでくれ；  
そして、そなたたちは驚なのだ；そなたたちがどんなに高く  
舞い上がろうとも、

私はそなたたちを引きずり降ろす足緒を持っているのだぞ； 40

そして、イギリスの傲慢この上ない貴族に向かっても

その害虫は「遂に対等に」と叫ぶであろう。

そなたが彼を飛び魚になぞらえて、飛び上がろうが  
 落ちようが、所詮死ぬことになるのだと脅かそうとも、  
 彼を飲み込むのは、海に棲む並ぶものなき巨大な怪物でも  
 なければ、淫らなハルピュイアでもないのだ。 45

若モーティマー 奴がいなくても、王がこれ程執心しているとなれば、  
 奴が姿を見せたなら、王は一体どうなされることか？

ランカスター それが見られるぞ；そら、閣下がお見えになったぞ。

[ギャヴェストン登場]

エドワード王 私のギャヴェストン！ 50

タイムマスへようこそ戻られた！ そなたの友のもとへようこそ！  
 そなたがいなかったので、私は意気消沈、悲しみ襲われてしまった；

美しいダーナエの恋人たちが

彼女が真鍮の塔に幽閉されると

ますます彼女を求め、怒り狂ったのと同様、 55

私も真にそういう状態だったのだ。そして、今そなたの

姿を見られることは、そなたがここを去って行った時の

啜り泣く私の心の辛さや苦しさに比べ、遙かに甘く、楽しいものだ。

ギャヴェストン 優しい国王陛下、そのお言葉を賜って私にはお返しす  
 る言葉が見付きりません。

ですが、私の喜びを表す言葉をまだのこしております。 60

肌を刺す厳しい冬に身を切られる羊飼も、

陛下にお目にかかれた私の喜び程には、

花々に彩られた春の訪れをはしゃぎ、騒ぐことはないでしょう。

エドワード王 そなたたちは誰も私のギャヴェストンに挨拶をしようと  
 しないのか？

ランカスター 奴に挨拶ですと？ いいでしょう。ようこそ宮内長官閣下。 65

若モーティマー ようこそ、コーンウォール伯爵閣下。

ウォーリック ようこそ、マン島総督閣下。

ペンブルック ようこそ、国務長官閣下。

ケント 兄上、彼らの言っていることを聞きましたか？

エドワード王 この貴族たちは依然として私をこのように扱おうと

しているのか？ 70

ギャヴェストン 陛下、こんな侮辱には我慢できません。

イザベラ王妃 ああ、何ということでしょう、またぎしぎしし始めたわ。  
[傍白]

エドワード王 その言葉を奴らの喉へ突き返してやるがよい；私が認可  
するぞ。

ギャヴェストン 生まれを誇り奢るだけの、下劣で、うすのろの伯爵た  
ちよ、家に帰り、座して、小作人が運んで来た牛肉でも食っているが  
いい、 75

ギャヴェストンを嘲笑しに、ここへなどくるでない。

高きを目指すこのギャヴェストンの心は、あんたら如きに  
一瞥を与える程、どん底を這いつくばったことはないのだから。

ランカスター それでも、お前にこうせずにはおられないのだ。

[剣を抜く]

エドワード王 反逆だ！ 謀反人はどこだ？ 80

ペンブルック ここです！ ここにおります！

エドワード王 ギャヴェストンを連れて行け；この連中に殺されてしまう。

ギャヴェストン あんたの命でこの醜い、恥ずべき行為を癒してもらわ  
ねばならん。

若モーティマー 悪党め、お前の命だ、私が狙いはずさなければ。

[ギャヴェストンを傷つける]

イザベラ王妃 おお、気性の激しいモーティマー、何ということをして  
しまったの？ 85

若モーティマー たとえ奴が殺されようとも、答えられないようなこと  
はしておりませんぞ。

[ギャヴェストン、従者たちと共に退場]

エドワード王 そうだ、彼が生きていようとも、お前が返答できる以上  
のことをだ。

お前たち二人はこの暴力行為に対して高い代償を払わねばならん。

退出せよ；宮廷に近づくこともならぬ。

若モーティマー 私はギャヴェストンの為に宮廷への伺候を阻まれたり  
はしませんぞ。 90

ランカスター 奴の耳を掴んで断頭台まで引きづって行ってやる。

エドワード王 自分の頭に気を付けるがよい；彼の頭は全然心配ない。

ウォリック ご自身の王冠に気を付けるがよろしい、これほど奴の

肩をもたれるなら。

ケント　ウォリック殿、そのようなお言葉はあなたの年齢に  
ふさわしくありませんよ。

エドワード王　いや、この連中は皆で共謀して、このように私に逆らっ  
ているのだ。 95

だが、私が生きている限り、傲慢な面構えで私をこうも  
踏み付けにしている連中の頭を踏み付けてやるぞ。

さあ、エドモンド、出掛けよう、兵を召集するのだ；  
この貴族たちの思い上がりを叩き潰すには戦さしかない。

[エドワード王、イザベラ王妃、ケント退場]

ウォリック　我々もそれぞれの城に戻りましょう、王は怒り狂って  
おられる。 100

若モーティマー　怒り狂い、その憤慨の中で死ぬがいい！

ランカスター　卿、今は王にかかわり合っている場合じゃありませんぞ。

王は武力をもって我々を屈服させる心算なのだ、  
それ故、我々はここに結集して、あのギャヴェストンを  
告発し、死に至らしめることを誓いましょう。 105

若モーティマー　誓って、あの下劣な悪党を生かしてはおかん。

ウォリック　奴の血を流してやる、さもなければ、こちらが死ぬかだ。

ペンブルック　このペンブルックも同様に誓います。

ランカスター　ランカスターも誓います。

早速、王への忠誠を捨てる旨を布告する使者を立て、  
王を権力の座から引きずり降ろすことを民衆に誓わせましょう。 110

[使者登場]

若モーティマー　書状か？　どこから来たのだ？

使者　スコットランドからです、殿。

[モーティマーに書状を渡す、モーティマー読む]

ランカスター　え、どうなのです、卿、我々の友人たちはどうして  
います？

若モーティマー　叔父上がスコットランド軍に捕らえられてしまった  
のです。

ランカスター　身代金を払って釈放してもらおう、ねえ；元気を出し  
なさい。

若モーティマー 叔父の身代金は5000ポンドという値を付けられているのです。 115

王以外の誰にその金を払う必要がありますでしょうか？

王が起こした戦いで囚われたのですから。

王のところへ行って来ます。

ランカスター そうしなさい、卿、私も同行しよう。

ウォリック その間に、ペンブルック卿と私は 120

当地のニューキャッスル城へ赴き、兵力を集めよう。

若モーティマー では、取り掛かってください、我々は後に従いましょう。

ランカスター 断固たる決意をもって、しかも極秘の内に。

ウォリック 確かに。

[若モーティマーとランカスターを除き全員退場]

若モーティマー 卿、もし王が叔父の身代金を出さなかったら、 125

臣下たる者がその王に向かって挙げたこともないような

大声を王の耳に轟かせてやりましょう。

ランカスター 良いでしょう、私も自分の役割を引き受けましょう。

おい、誰かおるか？

[衛兵登場]

若モーティマー うーん、全く、こういう衛兵なら結構だ。

ランカスター 案内してくれ。 130

衛兵 どちらへおい出になるのですか、みなさまは？

若モーティマー 王のところ以外ないであろう？

衛兵 陛下はお一人になられたいそうです。

ランカスター それは、王はそうされたいかもしれないが、我々は王と

話をしたいのだ。

衛兵 お入りにはなれません、閣下。 135

若モーティマー 入れないだと？

[エドワード王とケント登場]

エドワード王 どうしたのだ！ 一体何の騒ぎだ？

そこに居るのは誰だ？ そなたか？

[立ち去ろうとする]

若モーティマー いや、お待ち下さい、陛下、お知らせをもって来たの  
です；

- 叔父がスコットランド軍に捕らえられたのです。 140
- エドワード王 それなら、身代金を払えば良い。
- ランカスター あなたの戦いで捕らえられたのですぞ；身代金はあなたが払うべきでしょう。
- 若モーティマー そうだ、あなたが払うべきでしょう。さもなければ——
- ケント 何ですと、モーティマー！ 陛下を脅す心算ではないでしょうな？
- エドワード王 落ち着いて；彼の為に全国から義捐金を募れるように 145  
王の許可証をあげるとしよう。
- ランカスター ご寵愛のギャヴェストンがそうしろと教えたのですな。
- 若モーティマー 陛下、モーティマー家は、領地を売れば、  
あなたを怒らせるに足る兵力を集められないほど  
貧乏ではありませんぞ。 150
- 我々は決して懇願などしません、唯、このように願うだけの  
ことです。  
[剣を握る]
- エドワード王 何時までもこのように付きまとわれるのか？
- 若モーティマー いや、今あなたがここに一人でおられるから、私の心の裡を話しましょう。
- ランカスター 私もです、それから、陛下、お別れです。
- 若モーティマー 下らぬ馬上試合、仮面劇、淫らな見世物、 155  
ギャヴェストンに惜し気もなく与えた贈り物の為に  
国庫は干上がり、あなたは力を弱めてしまったのだ、  
不平不満をつぶやく民衆の忍耐は張り詰めた糸のごとく、今  
にも断ち切れんばかりだ。
- ランカスター 反乱には用心なさい；退位させられることなどない  
ように気を付けなさい。
- あなたの駐屯軍はフランスから撃退され、 160  
哀れな負傷者どもが市の門前付近に横たわり呻いているのだ。  
凶暴なオニールはアイルランド兵の大軍を率いて、  
イングランド支配地内において勝手気ままに振る舞っている。  
スコットランド軍はヨークの城門を目指して進撃し、  
無抵抗の我が軍を撃破し、山の如き略奪品を持ち去ってしまった。 165

若モーティマー 傲慢なデーン人が海峡を制し、

一方、あなたの船は何の装備もなく港に足止めされているのだ。

ランカスター あなたに使節を派遣したりする王侯などこの国にいる  
というのです？

若モーティマー 一握りの追従者の他に、あなたを愛してるものなどい  
るのかね？

ランカスター ヴァロワ家出身のフランス王にとって唯一人の妹でもあ  
る、あなたの優しいお妃は、 170

あなたに見捨てられ、侘しさを嘆いておられます。

若モーティマー あなたの宮廷は裸同然だ、衆目に対し、王を栄光ある  
存在たらしめている人々が失われてしまったのだから；

貴族のことを言っているのですよ、あなたは彼らをもっと大切に  
するべきだったのだ。

あなたを誹謗する文書が通りでばらまかれ、 175  
あなたの転落を歌う民謡や押韻詩が作られているですぞ。

ランカスター 北方辺境の人々は、家が焼かれ、  
妻や子供たちが殺されるのを見て、あちこち駆け廻っているのです、  
あなたやギャヴェストンの名を呪いながら。

若モーティマー あなたは軍旗を翻して戦場に臨んだことなどあるのかね？ 180

たった一度だけだった、しかも、その時あなたの兵士たちは  
役者まがいに、甲冑ならぬ、派手な衣装をまとって進軍し、  
あなたは自身は、金ピカに飾り立て、廻りの者に笑い

かけながら馬を進め、

ピカピカ光る兜を頷かせ、振りかざしていたが、  
その兜からはご婦人たちからの贈り物がリボンのように

ぶら下がっていたではありませんか？ 185

ランカスター それ故、イングランドにとってはこの上ない恥辱ながら、  
スコットランド人が嘲って、こんな歌を詠んで囃したのです。

イングランドの乙女たちよ、存分にお嘆きなさい、  
あんたたちは恋人たちをバノクスバーンの戦いで

失ってしまったのだから、

そうれ、よいと巻け！

イングランド王は何と思うだろう、  
こんなに手早くスコットランドを勝ち取って？  
ロンビロー！

若モーティマー 叔父上を釈放させるために、ウイグモアを売る  
ことにしよう。

ランカスター 売却しても、われわれの武力をもってそれ以上のものを  
手に入れよう。 195

我々の言葉に憤慨したといわれるなら、仕返しをしてご覧なさい。  
今度は我々の軍旗を翻してお会いいたしますぞ。

[若モーティマーと共に退場]

エドワード王 この胸は高まる怒りで張り裂けそうだ。

これまであの貴族たちに幾度嘲られたことか、  
しかも、彼らの勢力が強大なため、復讐も出来ぬ！ 200

だが、あの青臭い雄鶏どもの鳴き声が  
ライオンを威すことが出来ようか？ エドワードよ、お前の  
足の爪を広げ、

奴らの生き血で、お前の飢えた怒りを癒すがよい。

もし、私が残酷な暴君ともなれば、  
奴らは自業自得と悔やんでみても、もう手遅れだ。 205

ケント 陛下、ギャヴェストンへのあなたの愛が

我が王国とあなたの滅亡を齎すものと分かりました。

今や、怒り猛った貴族たちが戦争をも辞さぬと脅しているからには、  
それ故、兄上、彼を永久追放なさってください。

エドワード王 そなたは私のギャヴェストンの敵になろうというのか？ 210

ケント そうです、そして彼に好意を抱いていたことを悔やんで  
おります。

エドワード王 裏切り者、退れ！ モーティマーと共に泣き事を  
言うがよい。

ケント そう致しましょう、ギャヴェストンと共にいるよりは。

エドワード王 私の目の前から消えてしまえ、二度と私を悩ませたり  
するな。



ケント あなたがあなたの貴族たちを嘲るのも当たり前のことだ、  
実の弟の私でさえこのように退けられるのだから。 215

エドワード王 退れ！

[ケント退場]

可哀想なギャヴェストン、私の他一人の友もいないとは、  
奴らに何が出来ようとも、我ら二人はこのタインマス城に住み、  
そなたと共に城壁の中を歩き、 220  
貴族たちに包囲されようとも、意になど介そうか？  
この度の争いの元凶たる女がやって来たぞ。

[イザベラ王妃、王の姪、侍女二人、ギャヴェストン、ボールドック、  
若スペンサーと共に登場]

イザベラ王妃 陛下、貴族たちが兵を挙げたようですね。  
エドワード王 そうだ、それに、彼らはそなたのお気にいりのようだが。  
イザベラ王妃 そんな風にあなたはいつも理由もなく私をお疑いになる  
のですね？ 225

姪 叔父様も、お妃さまにもっと優しくお話しなさって下さい。  
ギャヴェストン 陛下、ご本心を隠し、王妃さまに優しくお話しなさっ  
てください。

[エドワード王へ傍白]

エドワード王 許してくれ、妃よ、我を忘れていたのだ。  
イザベラ王妃 イザベラは直にお許しいたしますわ。  
エドワード王 若モーティマーがすこぶる増長し、 230  
面と向かって、内乱を起こすと私を脅すのだ。

ギャヴェストン 何故、奴をロンドン塔へ幽閉なさらんのですか？  
エドワード王 敢えて出来ぬのだ、民衆が彼を深く愛しているからな。  
ギャヴェストン ならば、ひそかに奴を片付けさせましょう。

エドワード王 ランカスターと彼が互いの健康を祝し合って毒薬入りの 235  
大杯で乾杯をしてくれたら良かったものを。  
だが、彼らのことはともかくとして、この者たちは何者なの  
か聞かせてくれ。

姪 父の生存中に仕えておりました者二人でございます。

これから、この二人を召し抱えていただけませんか？

エドワード王 生まれはどこだ？ 紋章はどのようなものだ？ 240

ボールドック 私はボールドックと申します、紳士の身分はオックス  
フォード大学から得たもので、家代々の家紋ではありません。

エドワード王 私の気質そっくりだぞ、ボールドック。

私に仕えるがよい、不自由などさせはしないぞ。

ボールドック 謹んで御礼申し上げます。 245

エドワード王 この者を見知っておるか、ギャヴェストン？

ギャヴェストン はい、陛下；

スペンサーと申す者です；立派な親族を持っております。

私の為に、陛下にお仕えさせて下さい。これほどお役に立つ者は滅多  
にないとお分かりになるでしょう。

エドワード王 ならば、スペンサー、私に仕えるがよい；彼の為に 250

近々もっと高い地位に着けてやるとしよう。

若スペンサー 陛下のご寵愛をいただく以上に

高い地位などありません。

エドワード王 姪よ、今日、あなたの婚礼を行うことにしよう。

ギャヴェストン、先頃亡くなったグロスター伯の唯一人の嗣子であ 255

る我が姪を、そなたと結ばせるというのは

私がそなたを深く愛している徴だと思ってくれ。

ギャヴェストン 存じております、陛下、立腹をしている者も大勢おり

ますが、

そんな者たちに好かれようが、嫌われようが、気にかけては

おりません。

エドワード王 頑固な貴族どもに牽制されたりはせぬ； 260

私の気にいった者には高い地位を与えてやるぞ。

さあ、参ろう；婚礼が終わったなら、

反逆者どもとその一味の者を打ち砕くのだ。

[退場]

\*使用テキスト：The Complete Plays of Christopher Marlowe  
 Edited, with an Introduction and Notes by IRVING  
 RIBNER  
 The Odyssey Press. INC. New York 1963

## [注]

## 第一幕第一場

- line. 1. ギャヴェストン エドワード一世に仕えたガスコンの騎士の息。エドワード二世の遊び友達として育った。
7. フランス ギャヴェストンはエドワード一世により追放されて故郷，フランスのガスコンに戻っていた。1307年，若きエドワード二世が王位に就き最初に行ったことは，その友を呼び戻すことであった。エドワード一世は1307年7月に逝去した。
8. リアンダー ギリシャの恋物語りの主人公。彼は夜毎，ヘレスポント(ダーダネルス海峡)を泳ぎ渡って恋人ヒーローに会いに行ったが，遂には溺死してしまった。マーローは彼の詩，「ヒーローとリアンダー」の中でこの物語りを歌っている。
14. 喜びで気を失って，原文 'die' を 'lie' と修正している現代の編集者もいるが，その妥当性はあまりない。
40. やまあらしは敵に向かってその針をうちだすことが出来ると信じられていた。
55. 仮面劇は仮装も含む，エリザ朝の人気演芸で，16世紀には，イタリアから入ってきたと考えられていた。イタリアの風習に影響されてはいたが，その発祥は不明である。エドワード王の時代には見られなかったので，これはマーローの時代錯誤であろう。
61. ダイアナ ギリシャの女神，純潔と狩猟を象徴する。
67. アクタイオン [ギリシャ神話] ダイアナの水浴する姿を見たために牡鹿に変えられ，遂には猟犬たちに食い殺されてしまった猟師。Ovid: Metamorphoses 参照。
73. ケント伯，エドマンズの登場はマーローの時代錯誤。エドワードの異母弟，ケント伯，ウッドストックのエドマンズは1307年にギャヴェストンが呼び戻された時には僅か6歳であった。同様に，両モーティマーがギャヴェストンに反対したという事実もない。  
 逆にヘンリー三世の孫，ランカスター伯，トーマスはエドワード二世，両スペンサー，ギャヴェストンの強大な対抗者であった。
123. モーティマーは王にとっては最も遠い縁戚。
144. ヒュロス はヘラクレスがイアソンと共に金の羊毛探索に出た折に随行した青年。船がニシアに着き，水を求めて上陸した際，水の精たちに連れ去られてしまった。ヘラクレスは嘆き，彼を探したがこだまのみが空しく戻った。
198. フリート 政治犯を収容したロンドンの監獄。

## 第一幕第二場

1. ウォリック ウォリック伯ガイ。エドワード王とギャヴェストンにとって最も執拗な敵であった。
45. イザベラ王妃 フランスの美男王，フィリップ四世の娘。1292年生まれ，1308年エドワード王と結婚。モーティマーとの件はかなり後のことである。

75. ニュー・テンプル 修道騎士団が設立した建物, 議会等の会場などとして用いられた。  
 78. ラムベム 1179 年以来カンタベリーの大司教の邸宅。

#### 第一幕第四場

13. *Quam male conveniunt!* = How badly they suit one another.  
 16. パエトン アポロとクリュムネの息子, 父の日輪の馬車を御し損なって, 天地に大火災を招き, ゼウスの雷に打ちのめされた。  
 172. キルケ Homer: *Odyssey* に登場する魔女。波の上を歩いたという話は, Ovid: *Metamorphoses* 参照。  
 174. ヒュメン ギリシャの結婚の神。  
 178-180. ユノーは, 夫ユピテルが美少年ギャニミードを酌人とするために攫い, 寵愛したため激怒する。Ovid: *Metamorphoses* 参照。  
 186. ペンブロック 最初は王とギャヴェストンに対抗するが, 後, ランカスター, (SD) ウォリックと口論をし, 王の側に付く。王の大使としてフランスに滞在中に没。1324 年。  
 223. torpedo = cramp-fish or electric ray. 獲物に電気のショックを与えて捕まえる 'えい'。  
 312. キュクロプス エトナ山にある鍛冶場で火の神ウルカヌスの助手をしていた一つ目の巨人。  
 358. チャーク シュロプシャーとウエイルズとの境界にある市。老モーティマーはこの地の領主。  
 370. イーリス ユノーの使神。  
 メルクリウス ユピテルの使神。  
 391. ヘフェスティオン アレクサンダー大王の親友。  
 392. ヒュロス I. i. 144 の注参照。  
 393. パトロクラス アキレウスの友人。トロイの王子ヘクトルに殺された。この出来事によりアキレウスは奮起し, トロイ戦争を終結に導いた。  
 395. タリウス マルカス・トゥリウス・キケロ。偉大なローマの雄弁家, 政治家。彼とオーガスティヌス・カエサル(オクテヴィアス)との間にはここにみられるエドワード二世とギャヴェストンとのような関係はない。  
 396. アルキビアデス 高貴な生まれだが放蕩者の美青年, ギリシャの哲学者ソクラテスの庇護を受けた。  
 407. ミダス ディオニソスによって, 手に触れる物すべてを金に変える力を授かった伝説上の王。  
 410. プロテウス 人間が抑えようとする, 自在に姿を変えた海神。

#### 第二幕第一場

- s.d 若スペンサー ヒュウ・ル・デスペンサー。グロスター伯の娘, ギャヴェストンの妻の姉と結婚。エドワード王の強力な支持者であった彼は, 父の処刑一か月後, 1326 年 11 月にヘレフォードにおいて処刑された。  
 ボールドック 王の玉璽保管官であったボールドックのロバート。王と共に逃走し, 1326 年 11 月に捕らえられ, 翌年没。  
 33. 黒のコート 伝統的な学者の服装。  
 53-54. *propterea quod, quandoquidem*, いずれも 'because' の意。共に修辭的に用いられた。  
 71. 馬車がイギリスに入ったのは 16 世紀中葉。マーローの時代錯誤。

## 第二幕第二場

20. *Aequo tandem* = equally at last (害毒ギャヴェストンは最後には樹木の頂きに登り、驚であるエドワードと肩を並べるであろうとの意)
23. プリニウス ガイアス・プリヌウス・セカンダス もしくは、プリニウス・ジ・エルダー。 *Naturalis Historia* を著したローマの作家。実際にはこのような話の記述はみられない。しかし、Sir John Hawkin's account of his second voyage to Guiana, (1565) の中にはマーローに類似した記述がみられる。
28. *Undique mors est* = Death is on all sides.
46. ハルピュイア 女性の頭をもった伝説上の怪鳥。
53. ダーナエ ギリシャ伝説上のヒロイン。アルゴス王アクリシオスの娘、その子が王を殺すという神託を恐れた父の手で塔に幽閉されるが黄金の雨に姿を変えたユピテルの求愛をうける。  
ギリシャ神話には彼女に他にも恋人達がいたという記述はない。
114. 伯父のモーティマーがスコットランド軍に捕らえられたという史実はない。
162. オニール オニール・シェーン。マーローの時代にアイルランドにおいて指導的地位にあった一族。
170. ヴァロア イザベラ王妃の兄弟たちは実際にはヴァロア家の出ではない。しかし彼女のいとこ、ヴァロア家のフィリップはフランスの王となった。
189. *lemans* = sweethearts  
バノックバーン 1314年6月21日に戦われた対スコットランド戦。イギリスはこの戦いで決定的な打撃を受けた。
193. *rombelow* レフレインに用いられる無意味な言葉。
194. ウィグモア 若モーティマーの居城。